

歴史総合・日本史探究

多くの受験者の答案を見る限りでは、日本史探究の学習の遅れが目立つ結果となった。特に問題Ⅴの近世の問題はその傾向が顕著に出ており、空欄解答が他の問題に比べて目立つ結果となった。

また論述問題に慣れていないせいか、空欄解答や必要な単語のみを記入している解答が目立った。

名大の入試問題は、全時代から問題が出題されるため、通史の完成が急がれる。また基本問題での失点が多く見られたため、既習分野においても教科書内容の習得に努めてもらいたい。

問題Ⅰ＜歴史総合・パレスチナ問題と日本の高度経済成長＞ ※歴史総合・世界史探究の問題Ⅰと共通です。

2025 年度の名大入試において、「日本史探究」「世界史探究」の共通問題（手塚治虫の漫画『一輝まんだら』を参考に論述する問題）が出題されたため、本問もそれを踏襲した。手塚治虫の『アドルフに告ぐ』を題材に論述する問題であるが、指定語句（バルフォア宣言・イギリスの委任統治・パレスチナ分割案・シオニズム運動・高度経済成長）は教科書レベルであり、漫画も参考になることから、論述の方向性はかなり明確である。また、指定語句の最後に「高度経済成長」があることからわかるように、本問は「歴史総合」を意識した出題となっている。つまり、論述の際に、「パレスチナでの問題」が「日本の高度経済成長」にどのようにつながるのかという点を明確に示すことが求められる。

また、「長文論述」の練習の際に注意すべき点は、

- ・制限時間を設けた上での練習
- ・作成した答案を添削してもらう

という 2 点である。

試験時間 90 分の中で、問題Ⅰのような「長文論述」に充てられる時間は長くても 30 分程度であることから、「30 分以内」という時間制限の中で練習し、独りよがりの答案にならないように、必ず添削してもらう必要がある。

その一方、本問の指定語句の中に、論述する上で使い方に迷う語句があった場合、「過去問」や「長文論述」の演習をするレベルには達していない。「共通テスト対策」も含め、「歴史総合」の教科書に戻った上での基礎固めが必要であろう。

問題Ⅱ＜原始・古代の墓制＞

2025 年度の名大入試においては、古代の外交の問題が出題され、『宋書』『隋書』『続日本紀』などの史料を読み解く問題が出題された。

本問においては、原始・古代の墓制について問われている問題が多かった。

空欄補充の問題としては、エの「百舌鳥古墳群」はやや難しかったように思う。最大規模を有する大仙陵古墳(大仙古墳, 大山古墳)を有する古墳群であることは分かっていても、その名前まで押さえられている受験生は少なかった。

問 2 については、甕棺墓と四隅突出型墳丘墓の名前を出すことのできた受験生は多かったものの、題意である墓の分布ではなく、埋葬者の性質を述べる受験生が多かった。

問 3 については、邪馬台国の所在における九州説や近畿説をあげることはできていたものの、その支配領域についての言及までできていた受験生は一握りであった。また出現期の古墳を取り上げるべきところを書けている解答は少なかったため、問題文をよく読む必要がある。

問 4 については、石室の性質の変化の論述であるが、部分的でも得点できている解答が多くあった。一方で、題意から外れる副葬品や埴輪の変化を述べている解答も多かったため、問題の焦点を読み外さないようにしたい。

問題Ⅲ＜古代の皇位継承＞

本問では、飛鳥～平安にかけての皇位継承に関する問題が多く出題された。

空欄補充の問題は、ウ、エの正答率が下がっており、天皇と摂関家の関係、他氏排斥事件の関連付けが必要であった。

問 2 については、(a)と(c)の正答率は良かった。(d)の論述は「当時どのようにみなされたか」「都がどのような結果になったか」の 2 点を述べるべきところを、片方のみしか言及できていない解答が多かった。

問 3 については、平城太上天皇の変(葉子の変)に関連して、藤原氏にかかわる政治的意義を述べる問題であった。文章を踏まえて「北家が台頭した」ことを述べた解答はあったものの、当時の北家の様子を記載した解答は少なかった。

問 4 については、大変難しかった問題であった。写真の仏像や寺院の名前を取り上げて、仏像に使われている技法や、寺院の伽藍配置について述べなければならない問題であった。技法名や伽藍配置については述べられていたものの、写真の中の物の名称を正しく挙げられた解答はほとんど無かった。教科書や資料集に必ず掲載されている仏像、寺院であるので、すぐに確認してもらいたい。

問 5 は遣唐使の停止の理由について、史料を読み解いてその建前と本音を回答する問題である。史料を読み解いた建前の部分を解答できているものの、本音の部分は記載できていない解答が多かった。本音の部分は推測しなければならないため、建前の部分の記載だけでも解答できるようにしておきたい。

問題Ⅳ＜中世の都市＞

2025 年度の名大入試においては、中世の東北・北陸・関東地方の政治、経済、文化に関する問題が出題された。

本問では、地図や史料を用いつつ、幕府の本拠地となった鎌倉と京都を比較した問題であった。

問 1 の空欄補充の問題は二極化していたため、取れていない受験生は急ぎ教科書で用語を確認しておきたい。

問 2 については、源頼朝が鎌倉を本拠とした理由を地図やメモから説明する問題であった。ほとんどの受験生は解答したものの、過不足なく説明し満点解答となったものは少なかった。

問 3 については、将軍御所の警備をする奉公の名前を問う問題であるが、正答率が低かった。鎌倉時代の御家人の奉公についての基礎知識であるため、教科書で急いで確認していただきたい。

問 4 については、足利尊氏が鎌倉を本拠地にすることにこだわらなかった理由と建武式目を定めた理由を史料の建武式目から説明する問題であった。「史料名と史料中の空欄を補いながら」という制約があったものの、問題文を読めば史料名を特定する情報が史料中の空欄の前にヒントとなる語句があったため、そこを見逃さなければ補うことはできた。また片方の理由のみをあげる解答が多かったため、2 つとも記載するように心がけてほしい。

問 5 について、室町時代の武士関係者が多く在京している理由を守護大名の領国支配と絡めて説明する問題であったが、守護大名へ成長する過程を説明している解答が散見された。題意の見落としには気をつけたい。

問題Ⅴ＜近世の天皇・朝廷＞

2025 年度の名大入試においては、近世から近代の蝦夷地・アイヌをめぐる諸問題が出題された。

本問では、近世の天皇や朝廷に関して史料や家系図を絡めて解答する問題であった。

問 1 の空欄補充の問題は、学習進度によって正答率が二極化したように見受けられる。問題Ⅴの空欄補充問題が取れなかった受験生は通史の完成を急いでいただきたい。

問 2 は徳川家康が存命中に徳川秀忠の征夷大將軍任命を利用して、何を示したかったかを当時の勢力動向を踏まえて説明する問題である。「何を示したかったのか」と「当時の勢力動向」の 2 点述べる必要があるが、多くは片方のみしか触れられていない解答が多かったため、題意の見落としに気をつけたい。

問 3 は史料の禁中並公家諸法度の内容から、朝廷の権能について幕府のかかわりを踏まえて説明する問題であった。解答の多くは史料名を上げているものがほとんど無かった。また「幕府とのかかわり」とは関係なく述べている解答がほとんどであったため、こちらも題意の見落としに気をつけたい。

問 4 は江戸時代の禁裏御料を答える問題であったが、この問題も学習進度の差が出た問題であった。

問 5 は尊号一件を説明しつつ、老中首座と家系図中の空欄の人物の対立関係を説明する問題であったが、条件が多い問題でもあった。対立する老中首座と空欄の人物の名前を明確にすること、前将軍を意味する呼称に触れること、尊号一件の説明をすることの 3 点が必要となっていた。空欄になっている人物は 10 代将軍の徳川家治の養子に入っていることから、徳川家斉であることが分かる。また老中首座は問題本文に寛政の改革を行ったとあることから松平定信であることが分かる。この 2 人の対立については教科書に記載されていないことが多いものの、前将軍を呼称する「大御所」を使うという条件から、説明が求められている尊号一件と問題の本質が似ていることに気づくことができれば解答することができる。

【採点基準】

問題Ⅰ＜歴史総合・パレスチナ問題と日本の高度経済成長＞ ※歴史総合・世界史探究の問題Ⅰと共通です。

- ① バルフォア宣言の時期が「第一次世界大戦中」であることが分かれば1点。
※ ①で加点する場合④では加点しない。
- ② バルフォア宣言の内容・③の原因として、「イギリスがバルフォア宣言でシオニズム運動が目指すパレスチナでのユダヤ人国家建設を認めた」という内容が書けていれば8点（「バルフォア宣言の発表国」が1点、「バルフォア宣言の発表」が2点、「シオニズム運動の関与」が2点、「パレスチナでのユダヤ人国家建設の認可」が3点）。
※ ⑧Ⅱの項目で「シオニズム運動の関与（2点）」を加点する場合、これを重複して加点しない（どちらか一方で加点）。
- ③ 「ユダヤ人がパレスチナに入植した」という内容が書けていれば、Ⅰ・Ⅱいずれかの高い方の点を採用し最大4点。
Ⅰ ②の結果、ユダヤ人のパレスチナ入植 4点（「ユダヤ人のパレスチナへの入植」が2点、「ユダヤ人とアラブ人の対立」が2点）。
※ Ⅱとの違いは"入植が始まった"や"対立／緊張が始まった"が減点対象とならないこと
Ⅱ ⑤・⑦・⑧の結果、ユダヤ人のパレスチナ入植 4点（「ユダヤ人のパレスチナへの入植」が2点、「ユダヤ人とアラブ人の対立」が2点）。
- ④ パレスチナ委任統治下の時期が「第一次世界大戦後」であることが分かれば1点。
※ ④で加点する場合①では加点しない。
- ⑤ 「イギリスがパレスチナを委任統治した」という内容が書けていれば4点（「イギリス」が1点、「パレスチナ」が1点、「委任統治」が2点）。
- ⑥ パレスチナ分割決議の時期が「第二次世界大戦後」であることが分かれば1点。
- ⑦ パレスチナ分割案の決議とその目的として、「アラブとユダヤの対立を解消するために、国連はパレスチナ分割案を決議した」という内容が書けていれば4点（「アラブとユダヤの対立の解決のため」が2点、「国際連合によるパレスチナ分割案の決議」が2点）。
- ⑧ 「イスラエルが建国された」という内容が書けていれば、Ⅰ・Ⅱいずれかの高い方の点を採用する（Ⅰが最大3点、Ⅱが最大5点）。
Ⅰ ユダヤ人国家のイスラエル建国 3点（「イスラエルがユダヤ人国家である」が1点、「イスラエルの建国」が2点）。
Ⅱ シオニズム運動が目指したユダヤ人国家のイスラエル建国 5点（「イスラエルがユダヤ人国家である」が1点、「イスラエルの建国」が2点、「シオニズム運動の関与」が2点）。
※ ②でバルフォア宣言への「シオニズム運動の関与」で加点されず、⑧の項目でこれが記述されている場合に加点対象。
- ⑨ ⑧の結果として、「反発したアラブ諸国がイスラエルに侵攻して（第1次）中東戦争が始まった」という内容が書けていれば5点（「アラブ諸国の反発」が1点、「アラブ人がイスラエルに侵攻」が2点、「中東戦争」が2点）。
- ⑩ 第4次中東戦争の時期が「1973年」付近であることが分かれば1点。

- ⑪ 「第4次中東戦争でアラブ産油国がイスラエルを支持する（西欧）諸国に対して石油戦略をとった」という内容が書けていれば6点（「第4次中東戦争」が2点,「アラブ産油国」が1点,「イスラエルを支持する諸国」が1点,「石油戦略」が2点）。
- ⑫ ⑪の結果として,「第1次石油危機が起こった」という内容が書けていれば2点。
- ⑬ 石油危機の日本への経済的影響その1として,「原油の高騰により日本は物価高になった」という内容が書けていれば5点（「原油価格高騰」が2点,「原油価格高騰の日本への影響」が3点）。
- ⑭ 石油危機の日本への経済的影響その2として,「戦後初のマイナス成長を記録して高度経済成長が終わった」または,「高度経済成長から安定成長になった」という内容が書けていれば3点（「マイナス成長／安定成長」が2点,「⑪・⑫・⑬の結果,高度経済成長が終わる」が1点）。
- ⑮ 石油危機の日本への経済的影響その3として,「新しい産業政策（省資源型など）への転換が図られた」という内容が書けていれば3点（「新しい産業政策の具体例」が2点,「新しい産業政策への転換」が1点）。

※ 以下, ①～⑮とは別枠で減点。

- ・ 指定語句の使用（下線引きを含む）が一つでも抜けているものがあれば2点減点。

問題Ⅱ <原始・古代の墓制>

問1

ウ 別解として「環壕」も正答とする。

問2

- ① 土坑墓などに伸展葬されることが書かれていればよい。
- ② 九州北部では甕棺墓が見られたことが書かれていればよい。
- ③ 山陰地方では四隅突出型墳丘墓が見られたことが書かれていればよい。
- ④ 地域によって異なる特徴が見られたことと同様の内容が書かれていればよい。

問3

- ① 九州説が書かれていればよい。
- ② 邪馬台国が九州に勢力を持っていたことと同様の内容が書かれていればよい。
- ③ 近畿説が書かれていればよい。
- ④ 邪馬台国が近畿から九州まで支配していたことと同様の内容が書かれていればよい。
- ⑤ 箸墓古墳は近畿説の手掛かりの一つだという表現があればよい。

問4

- ① 竪穴式石室と横穴式石室の記載があればよい。
- ② 玄室とその役割について書かれていればよい。
- ③ 羨道とその役割について書かれていればよい。
- ④ 追葬が可能と書かれていればよい。
- ⑤ 家族墓的性格といった表現があればよい。

問題Ⅲ＜古代の皇位継承＞

問1

特記なし。

問2

- (a) 特記なし。
- (b) 特記なし。
- (c) ① 桓武天皇の母や皇后という語句が書かれていればよい。
② 死去したことが書かれていればよい。
- (d) ① 早良親王の怨霊（祟り）ということが書かれていればよい。
② 長岡京から平安京という順序があっていればよい。
③ 都が遷都されたことが書かれていればよい。

問3

- ① 藤原冬嗣が正しく記載されていればよい。
- ② 蔵人頭に任命されたことが書かれていればよい。
- ③ 北家台頭の契機となったという表現があればよい。

問4

- ① 図1は観心寺如意輪観音（坐）像と記載があればよい。
- ② 技法は一木造と書かれていればよい。
- ③ 衣文の表現方法は翻波式と書かれていればよい。
- ④ 図2は室生寺と記載があればよい。
- ⑤ 伽藍配置が特徴と書かれていればよい。

問5

- ① 菅原道真と正しく記載してあればよい。
- ② 「航海の危険性」と「唐の衰退」の両方、またはいずれかを建前としたことが書かれていればよい。
- ③ 唐物は唐に行かずとも入手できると考えていた道真の本心を推測して書けていればよい。

問題Ⅳ＜中世の都市＞

問 1

特記なし。

問 2

- ① 鎌倉と源氏は縁が強かったことと同様の内容が書かれていればよい。
- ② 鎌倉が天然の要害であったことと同様の内容が書かれていればよい。
- ③ 切通が鎌倉への人口流入や物流口として設置されたことと同様の内容が書かれていればよい

問 3

別解として「関東番役」も正答とする。

問 4

- ① 北条義時が書けていればよい。
- ② 全国支配を掌握した地という表現があればよい。
- ③ 幕府の所在地が栄えるか廃れるかは政治の善し悪しにあるという表現があればよい。
- ④ 当面の政治方針を明らかにするという建武式目の制定目的が書けていればよい。
- ⑤ 建武式目が書けていればよい。

問 5

- ① 領国は守護代が治めていたことが書かれていればよい。
- ② 守護大名は在京して幕府に出仕したことと同様の内容が書かれていればよい。
- ③ 守護大名やその被官が京都に集住したことと同様の内容が書かれていればよい。

問題Ⅴ＜近世の天皇・朝廷＞

問1

- イ 別解として「大嘗の祭」または「大嘗会」も正答とする。

問2

- ① 西国で勢力を保っていた豊臣家のことに触れていればよい。
- ② 将軍職が徳川家の世襲であることを示したという表現があればよい。

問3

- ① 禁中並公家諸法度が書けていればよい。
- ② 官位叙任権は朝廷が有することが書けていればよい。
- ③ 武家の官位叙任権は幕府が掌握したことと同様の内容が書けていればよい。
- ④ 朝廷は幕府の関与のもと、改元（または改暦）を行ったことが書けていればよい。

問4

- 別解として「禁裏御領」も正答とする。

問5

- ① 朝廷が光格天皇の実父に太上天皇の尊号を宣下することに関して、幕府に同意を求めたことが書けていればよい。
- ② 定信が朝廷の申し出を拒否したことが書けていればよい。
- ③ 定信は家斉の実父を大御所にする件で家斉と対立していたことが書けていればよい。